

卒業生の今 活躍する 医科歯科人

まつうら りえ

2009年東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科卒業。歯科衛生士、社会福祉士資格を取得。卒業後はNTT東日本関東病院の歯科口腔外科に勤務。

NTT東日本関東病院
歯科口腔外科 歯科衛生士

松浦理恵氏

総合病院ならではの 口腔ケアを実践

歯科衛生士の松浦理恵さんは、NTT東日本関東病院の歯科口腔外科で働きはじめて4年目。外来患者への治療介助から、病棟に入院している患者の口腔ケアを行っている。NTT東日本関東病院の外来診療は、歯科医院や病院などから紹介を受けた患者を中心に、唾液腺疾患、口腔内の腫瘍や感染症、智歯の抜歯、インプラントなど、外科的処置が中

心。他の診療科との協力体制を取り、各種治療前後の歯科処置も行っている。患者の大半は有病者であり、全身疾患把握のためにも事前の情報収集は重要な仕事となる。入院患者への口腔ケアは、総合病院に勤務する歯科衛生士ならではの仕事だといえる。病棟では特に高齢の患者が多く、各病棟からの依頼に応じた口腔内の清掃を行う。口腔内

を清潔に保つことで、細菌が肺に入り込んで起こる誤嚥性肺炎の予防にもなる。また、がん治療において、化学療法や放射線治療の合併症である口腔内の粘膜障害は、食事摂取に影響し、本来の治療を阻害することもある。症状を軽減し重症化させないための口腔ケアは欠かせない。入院患者の口腔ケアを受け持つ際、大学での実習経験が生かされる

ことが多かったと松浦さんは話す。「例えば、口腔内の観察だけではなく、モニターのバイタルサインに注意しながら口腔ケアを行い、ポジショニングを取る際も点滴や接続機器類に配慮する必要があります。また、口腔ケアを継続する上で、ご家族の協力や経済的な配慮が必要な場合もあるので、入院前の生活の様子や背景なども把握しておかなければなりません」

松浦さんは、社会福祉士の資格も取得している。高齢者はもちろんのこと、日常生活に援助を必要とする人たちに対していかに良い環境を提供すべきか考慮しながら取り組んでいる。松浦さんが現在の道を歩んだきっかけは、子どもの頃に受けた歯科矯正治療だった。治療を通じて口



総合病院の外来では、歯科医師をはじめ看護師などとコミュニケーションを図りながら歯科予防処置や歯科診療補助を行う。

当時入院していた祖母の口腔ケアを手伝っていたという。学生の頃から「高齢者や全身疾患の患者さんに対する口腔ケアを行いたい」と考えており、念願かなって総合病院で働くことになった。2012年からは、母校の歯学部4年生への臨床実習の指導も行っている。学生たちからは、「病棟での口腔ケアの様子を見学したい」という要望が多いそうだ。そんな学生たちに対して、「まずは患者さん自身について知ること」が大切だと語る。「大学では基礎知識と豊富な実習の機会を与えていただきました。現在、臨床現場においてさらに勉強し成長していかなければならないと思っています。今後は急性期・慢性期・周術期の患者さんのニーズに合わせて口腔ケアを展開し、院内の口腔ケアの啓蒙に努めていきたいです」



DATA
NTT東日本関東病院
東京都品川区

1952年に前身である関東通信病院が開設。99年、NTT再編に伴って、病院名をNTT東日本関東病院と改称した。病床数は665床（一般病棟615床、精神病棟50床）、1日の外来患者数は約2000人（2011年度）。脳神経外科でのガンマナイフ治療が有名で、ガンマナイフ総合頭蓋底外来を設置している。2012年には、院内に「NTT東日本関東病院タニタ食堂」をオープンしたことで話題になった。